

# 受診時は 「お薬手帳」をご持参ください！



## ●お薬手帳とは？

「おくすり手帳」は、いつ、どこで、どんなお薬を処方してもらったかを記録しておく手帳のことです。副作用歴、アレルギーの有無、過去にかかった病気、体調の変化などについても記入でき、ご自身の薬の情報を正確に把握・伝達する最良のツールです。お薬手帳そのものは保険薬局でもらえます。当院でも入院患者さんが退院されるときにお渡しすることができます。

他の医療機関に受診された時や旅先、災害時などにおいて、自分が飲んでいるお薬の内容を提示できることは、非常に重要で、状態を判断する大切な情報となります。医療機関、薬局に行かれる時以外にも、常に携帯しておくことが大切です。



## ●なぜ必要？

風邪や腹痛など、急な症状での受診において医師に処方を受ける場合にも、過去に飲んだことのある薬の記録はとても有効な情報となります。

また調剤をする薬剤師にとっても、服用歴と副作用、アレルギー歴からチェックできることや、飲み合わせや重複投与を防止することができ、安全な服薬につながります。特に入院時には、それまでに飲んでいた薬が、その量などと一緒に分かることは、病院の医師にとっても重要な情報となり、より安全に、より早く、より効果的に治療がスタートできることにつながります。また、いつも同じ薬局にかかり、おくすり手帳を持参することは、ご自身の負担額の軽減にもなります。



## ●1冊にまとめましょう！

お薬手帳は受診する医療機関ごと、また、薬局ごとに手帳を分けるのではなく、ご自身が飲んでいるお薬の情報を1冊にまとめて活用していただくことが重要です。

そうすることにより、患者さんが過去から現在まで服用してきた薬の内容や経過を医師や薬剤師が正確に把握することができ、より良い治療が受けられます。

